

東都大学図書館通信 (深谷キャンパス)

Historical Treasures

人体解剖模型



人体解剖模型

(じんたいかいぼうもけい)

出典: ColBase (<https://colbase.nich.go.jp/>)

江戸時代後期、整骨医の指導のもとで木製の人体骨格模型が製作されました。代表的なものには、大阪(当時は大坂)の整骨医・各務文献(かがみぶんけん)(1765~1829)が関わった、原寸大の全身骨格模型があります。写真の模型は骨格だけでなく、胃・脾・腸・腎・膀胱をはじめ、隔膜や脈管まで表現されており、類例の少ない貴重なものです。現在は東京国立博物館に所蔵されています。各務文献は1810年頃に『整骨新書』を著し、工人に等身大の成人男性の木製骨格模型「木骨(もっこつ)」を製作させ、幕府に献上しました。木骨は幕末から明治初年にかけておよそ10体作られ、人骨の研究が難しかった当時、西洋医学の理解を助ける教材として大きな役割を果たしたと言われています。

江戸時代後期、整骨医の指導のもとで木製の人体骨格模型が製作されました。代表的なものには、大阪(当時は大坂)の整骨医・各務文献(かがみぶんけん)(1765~1829)が関わった、原寸大の全身骨格模型があります。写真の模型は骨格だけでなく、胃・脾・腸・腎・膀胱をはじめ、隔膜や脈管まで表現されており、類例の少ない貴重なものです。現在は東京国立博物館に所蔵されています。各務文献は1810年頃に『整骨新書』を著し、工人に等身大の成人男性の木製骨格模型「木骨(もっこつ)」を製作させ、幕府に献上しました。木骨は幕末から明治初年にかけておよそ10体作られ、人骨の研究が難しかった当時、西洋医学の理解を助ける教材として大きな役割を果たしたと言われています。

Historical Heroes

衛生の礎を築いた医師・長与専斎



長与専斎

出典: 国立国会図書館「近代日本人の肖像」(<https://www.ndl.go.jp/portrait/>)

日本の公衆衛生制度の基礎を築いた人物として知られる長与専斎(1838~1902)は、現在の長崎県大村市に生まれました。大阪(当時は大坂)の適塾で学んだ後、長崎でオランダ軍医ポンペ・ファン・メールデルフォールトに師事し、「病気を未然に防ぐ社会をつくる」という予防医学の理念に触れます。岩倉具視らとともに欧米を視察した際、先進的な衛生管理の仕組みに深い衝撃を受けた専斎は、帰国後に文部省医務局長や内務省衛生局初代局長として、医師免許制度の創設、司薬場の建設、防疫・検疫制度の導入など、日本の衛生行政の基盤を整備し、公衆衛生の礎を築きました。また、「Hygiene」に「衛生」という訳語を与えたのも長与専斎です。私たちがいま暮らしている衛生的な生活環境は、彼の先見と尽力によって支えられています。

日本の公衆衛生制度の基礎を築いた人物として知られる長与専斎(1838~1902)は、現在の長崎県大村市に生まれました。大阪(当時は大坂)の適塾で学んだ後、長崎でオランダ軍医ポンペ・ファン・メールデルフォールトに師事し、「病気を未然に防ぐ社会をつくる」という予防医学の理念に触れます。岩倉具視らとともに欧米を視察した際、先進的な衛生管理の仕組みに深い衝撃を受けた専斎は、帰国後に文部省医務局長や内務省衛生局初代局長として、医師免許制度の創設、司薬場の建設、防疫・検疫制度の導入など、日本の衛生行政の基盤を整備し、公衆衛生の礎を築きました。また、「Hygiene」に「衛生」という訳語を与えたのも長与専斎です。私たちがいま暮らしている衛生的な生活環境は、彼の先見と尽力によって支えられています。

Touching Words

ことばの贈り物~本の中から~



いつも隣に

(案ずるペンギン 著/Gakken)

なんにも ない一日を、
にこにこ過ごせたら、
それだけで素敵なんだよ。

『いつも隣に』(n.p.)

なんだかホッとする表紙に思わず手にとりたくなる絵本『いつも隣に』。頑張りすぎて疲れた日にそっと開きたくなる一冊。“案ずるペンギン”からのメッセージにふわっと心が軽くなります。

Book Picks

フロントライン — 船上の命



フロントライン
(増本淳 著/サンマーク出版)

2020年2月、横浜港に帰港したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」で発生した新型コロナウイルスの集団感染。乗員・乗客約3,700人が閉ざされた船上で不安に包まれる中、最前線に立ったのは災害派遣医療チーム(DMAT)でした。プロデューサー・増本淳氏は取材を進める中で「コロナ禍の問題の多くが内包されている」と感じ、映画化を決定。報道されなかった船上の事実、医療者の勇気と葛藤、命を守る戦いを描いた物語がここにあります。

Book Picks

バター の 魔性



BUTTER
(柚木麻子 著/新潮文庫)

実在の事件を題材にした小説『BUTTER』。結婚詐欺の末に男性3人を殺害した罪に問われるのは、若くも美しくもないと世間から揶揄される容疑者・梶井真奈子。なぜ男たちは彼女に惹かれたのか。週刊誌記者・町田里佳は梶井と面会し、事件の真相へと迫ります。本作は海外でも大きな反響を呼び、全世界で累計100万部を突破。フェミニズム小説として注目される一方、作中のバターを使った料理の描写が美味しそうで、読んでいただけでバターのコクが口に広がるかのようです。

Book Picks

願いをつなぐ、クスノキの物語



クスノキの番人
(東野圭吾 著/美楽之日本社文庫)

小説『クスノキの番人』は、願えば叶うという不思議な大樹・クスノキと、その番人となった青年の物語です。主人公の直井玲斗は、不当な理由で職場を解雇され、窃盗未遂で逮捕されてしまいます。しかし、伯母・柳澤千舟の助けによって釈放され、引き換えに「クスノキの番人」という仕事を任されることに。様々な形の家族愛が描かれる本作。多くの人と出会い、成長していく玲斗の姿にも注目です。東野圭吾さんが描くハートフルなファンタジーの世界をぜひご堪能ください。

Book Picks

やさしく知る認知症



マンガ ぼけ日和
(矢部太郎 著/長谷川嘉哉 原案/かんき出版)

認知症専門医・長谷川嘉哉先生の著書『ポケ日和』をもとに、お笑い芸人で漫画家の矢部太郎さんがやさしいタッチで描いたマンガです。認知症のある人と、それを支える家族の毎日が、あたたかく、くすすと笑える場面を交えながら描かれています。作中では、「お金を盗った」と言ってしまうのは、「あなたがいなくて困る」という気持ちの裏返し、という印象的なエピソードも。認知症の見方や向き合い方が変わり、介護する人の心をふんわりと包み、軽くしてくれる一冊です。

Teacher's Picks

吉田修一 著『国宝』（上・下）

基礎看護学領域 新井麻紀子



国宝 上 青春篇 国宝 下 花篇

※上下巻共通（吉田修一著 / 朝日新聞出版）

2025年6月6日に公開された吉沢亮主演の映画『国宝』は、歴代興行収入ランキングで、邦画実写No.1作品となり、今なお上映されています。多くの方がご覧になったかと思いますが、わたしも2回鑑賞して、豪華な舞台場面と、映像の美しさ、演者の表現力に圧倒されながら、「原作ではどんなふうに描かれているのかな」と興味を持ち読んでみることにしました。

原作者である吉田修一の『国宝』は、昭和から平成へと移りゆく時代の中で、一人の歌舞伎役者が芸に身を捧げる姿を描いた小説です。芸という孤高の場に生きる人間の美しさと苦しさや、主人公をとりまく人々の人生までが豊かに表現されていて、まるで群像劇のような面白さがあります。映画には出てこない登場人物や、喜久雄の恋人でのちに御曹司の俊介の妻になる春江のエピソード

なども描かれています。主人公の立花喜久雄は、強烈な才能と衝動に導かれるように芸の道を歩んでいきますが、彼の生き方は決して清らかではなく、恋愛、スキャンダル、嫉妬、家族や歌舞伎界（仲間）との確執——さまざまな荒波を経験しますが、そのひとつひとつが、彼の芸を研ぎ澄ませる糧になっていきます。読んでいくうちに、芸とは完成された技というよりも、「生」を燃やして生まれるものなのだと思われました。文体も語り口調で進んでいくので、淡々と静謐でありながら、歌舞伎の舞台を描く場面にはその質感まで伝わるような臨場感があり、人生のきらめきと滅びが同時に息づいていることが伝わってきます。喜久雄の人生は、多くの破滅を伴いながらも、最後には一つの「物語」として昇華されます。

読み終えて、喜久雄にとって歌舞伎という芸が「生き様」であるように、わたしたちが目指す、看護もまたその人その人の「生き様」があらわれる職業の1つだと改めて感じました。看護師の仕事は、患者さんや同僚、多職種とのかかわりの中で、さまざまな価値観に触れながら経験を積み重ねていきます。知識や技術だけでなく、人の心の痛みや希望に誠実に向き合うこと、その積み重ねが、自身の看護を形作っていきます。喜久雄がさまざまな出来事に巻き込まれ、破滅を伴いながらも自分の芸を信じて歩んだように、わたしも自分の看護を信じてこれからも歩いていきたいと思いました。

Art & Culture

下村観山展



日本画家・下村観山（1873-1930）の回顧展が、2026年3月17日から東京国立近代美術館で開催されます。紀伊徳川家に代々仕えた能楽師の家に生まれた観山は、橋本雅邦に師事し、東京美術学校の第一期生として入学。卒業後は同校で教鞭を執りますが、校長・岡倉天心と志をともにして辞職し、日本美術院設立に参加します。狩野派や大和絵の伝統を基盤としながら、英国留学と欧州巡遊を通じて国際的視野を獲得。横山大観や菱田春草とともに、新しい日本絵画の道を切り拓きました。本展では約150件を展示。関東では13年ぶりとなる大規模回顧展です。能を主題とした作品をはじめ、政財界人との交流を示す資料も紹介します。さらに、英国留学時にアーサー・モリソンへ贈られ、現在は大英博物館に所蔵される作品も里帰り出品されます。明治から大正へと時代が移り変わる中で、日本画の可能性を追い求めた下村観山。本展に一步足を踏み入れれば、その挑戦の軌跡と、彼が追い求めた「日本画のあり方」を、きっと体感していただけることでしょう。

作品：《魚籃観音》1928（昭和3）年 西中山 妙福寺蔵（通期展示）※画像の無断転載を禁じます
 会場：東京国立近代美術館（〒102-8322 千代田区北の丸公園3-1） 会期：2026年3月17日（火）～5月10日（日） 休館日：月曜日（3月30日、5月4日は開館） 開館時間：10:00～17:00（金曜・土曜は10:00～20:00） ※入館は閉館の30分前まで 観覧料：一般2,000円、大学生1,200円、高校生700円 ※中学生以下、障害者手帳をお持ちの方とその付添者（1名）は無料。入館の際は学生証や障害者手帳等をご提示ください 展覧会公式HP：<https://art.nikkei.com/kanzan/> 東京国立近代美術館公式HP：<https://www.momat.go.jp/> ※最新の情報は、展覧会公式HPをご覧ください

Topics

薬屋のひとりごと

『薬屋のひとりごと』（日向夏著）を読みながら、薬草の世界に触れてみませんか。薬師見習いの猫猫（マオマオ）が王宮で巻き起こる様々な事件を薬学の知識で解き明かす物語。コミック版もあります！



More Book Picks

自由を追う『かもめのジョナサン』



かもめのジョナサン【完成版】
 （リチャード・バック 著 / 五木寛之 創訳 / 新潮社）

1970年の出版以来、世界で4,000万部以上を売り上げている『かもめのジョナサン』。群れの常識にとらわれず、自由に飛ぶことを追い求め、限界に挑み続ける一羽のカモメの姿は、多くの人に勇気と希望を与えてきました。出版当初は第3章までの物語でしたが、長い年月を経て、作者リチャード・バック自身の手で第4章が加えられ、完成版として刊行。第1～3章では自由や希望が描かれる一方、第4章では現代社会や文明への鋭い視点も盛り込まれています。時代を超えて読み継がれる、不朽の名作です。

More Book Picks

お題から広がる、想像の世界



本でした
 （又吉直樹・ヨシタケシンスケ 著 / ポプラ社）

著者の又吉直樹さんとヨシタケシンスケさんが互いに「その本は、〇〇が〇〇でした。これってどんな本でした？」というお題を出し合い、27編の短編物語を紡いだ書籍『本でした』。ユニークな構成に加え、お二人の豊かな想像力と発想力で紡がれる物語の数々からは、本への深い愛情と遊び心がたっぷり伝わってきます。一人でじっくり味わうのはもちろん、誰かと一緒にお題を出し合いながら読み進めるのも楽しい一冊です。

Editor's Note & News

本を読んでいると、思いがけず自分を支えてくれる言葉や、日々をそっと励ましてくれる言葉に出会うことがあります。そんな言葉に巡り合えた時、胸の奥がふっと温かくなり、「本っていいな」と改めて感じます。この春、皆さんが、心に灯るかけがえのない言葉とたくさん出会えますように。